

# 施設実習における日誌の記述に関する文献レビュー

## Literature Review on the Diary of Practical Training at Welfare Facilities

稲田 達也

Tatsuya Inada

### 問題と目的

館山・千葉 (2019)<sup>1)</sup> は、幼稚園教諭・保育士を志望する学生が抱えている課題をを把握することを目的に、1949年から2018年9月末までに発表された保育・学生に関する論文表題4672題をテキストマイニングの手法を用いて分析し、最も研究がなされている可能性のある語は「実習」であることを明らかにしつつ、学生それぞれに対応するように指導が行われた結果が研究という形で現れていると指摘した。

実習生には、日々の実習を記録することが義務付けられており、記録に関する指導は実習指導における重要な要素の一つである。山本・松山 (2020)<sup>2)</sup> は、実習における記録の目的として、「子ども（利用者）の行為の「意味」を知るため」「自分の実践を振り返り、その時の対応や今までの考え方を吟味するため」「明日の実習に向けて考え、準備をするため」「実習の目標やねらいに沿って振り返り、整理・確認をするため」「実習指導担当者、養成校教員、仲間や先輩と学びあう共有の資源とするため」「実習後に振り返り、成果や課題からその後の実習や学習に役立てるため」の6項目を挙げている。実習記録はこのような重要な目的を有するものであり、著者の所属する短期大学のシラバスにおいても、保育実習指導Ⅰでは「施設実習における実習簿の書き方」を、保育実習指導Ⅲでは「実習日誌の記入方法」をテーマとする授業が設定されている。しかし、2021年度の保育実習指導Ⅲの授業時に行ったアンケートでは、施設実習に向けて不安に思っていることとして、実習日誌の書き方を挙げる学生の割合が高かった。学生の不安感を十分に取除けるだけの解説・練習を蓄積できなかったことを反省するとともに、その意見を今後の授業改善に活用することは必須の事項である。その礎として本研究では、施設実習に関する論文の中から実習日誌（実習記録、実習簿）に関するものを選び、研究動向を概観することを目的とする。

## 方 法

2021年6月に国立情報学研究所の文献情報・学術情報検索サービス (CiNii Articles) を用いて論文検索を行った。「施設実習 保育」、「保育実習 施設」をキーワードに検索し、その中で、2001年以降の20年間に発表され、かつ実習簿、実習日誌、実習記録について調査または考察を行っているもの26件を対象とした。

表1 本研究で対象とした文献の概要

| 番号      | 著者<br>(年)        | 目的・対象・方法                                                                                             | (日誌に関する) 結果・考察                                                                                                                                                          |
|---------|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1<br>3) | 市東<br>2006       | 目的：実習記録の基盤となる「書く」ことの意味や、実習における記録とはどういうことであるかを振り返りつつ、記録の意味を探ること。<br>方法：著者の論考                          | 結果・考察<br>時系列式の記録における難しさを指摘し、「書く」ということに対する意味づけを実習生に伝えることが指導上のポイントになることや、記録自体が実習における体験の重要な一要素であること等を指摘した。                                                                 |
| 2<br>4) | 石山・<br>他<br>2010 | 目的：学生の施設実習に関する問題意識の構造化を図ること。<br>対象：学生155名 (面接実施はうち78名)<br>方法：「施設実習」事後指導場面から得られたデータ及び実習まとめシートでの感想     | 結果：聞き取り結果から、施設実習のマイナス面として、「日誌が書けなくて困った」との意見があった。<br>考察：なし                                                                                                               |
| 3<br>5) | 大野・<br>他<br>2012 | 目的：今後の指導の在り方について研究すること。<br>対象：学生66名<br>方法：「自己評価シート」によるアンケート                                          | 結果：「実習録に考察を記入することはできたか」の項目に関して、「はい」が52名 (78.8%)、「いいえ」が14名 (21.2%) であった。<br>考察：実習録のサンプルを提示しながら、どのように書けば考察になるのかを事前指導において改めて指導することが求められる。                                  |
| 4<br>6) | 村田・<br>他<br>2013 | 目的：養成校と実習施設とが協働で実習日誌の様式の検討から指導までを行い、効果を検証すること。<br>対象：実習生2名及び施設における各ホーム担当職員<br>方法：ヒアリング調査             | 結果・考察<br>学生と施設職員へのヒアリング調査により、実習生と職員の日誌に対する負担軽減等、取り組みの成果がみられた。                                                                                                           |
| 5<br>7) | 清水・<br>他<br>2013 | 目的：施設実習における学生の不安要因を調べ、実習事前指導における教育内容を検討する。次に、学生のストレスの自覚とストレスコーピング方略との関連を調べる。<br>対象：学生69名<br>方法：質問紙調査 | 結果：「施設実習の不安要因に関する調査」において、事前アンケートでは、具体的な不安要因に関して「日誌がうまく書けるか」、事後アンケートでは事前準備をしておいて役立ったこととして「日誌」が、また実習中に困ったこととしても「日誌」の回答が見られた。<br>考察：考察なし                                   |
| 6<br>8) | 池田・<br>他<br>2014 | 目的：学生の施設実習の学びの内容を明らかにすること。<br>対象：学生57名<br>方法：振り返りシートへの記入内容                                           | 結果：「実習前に準備しておけばよかったと感じたこと」への回答から得られた80単位中9単位が「日誌」のカテゴリーに分類された。<br>考察：考察なし                                                                                               |
| 7<br>9) | 藤重<br>2014       | 目的：学生の学びについて調査するとともに、学生の事前学習の必要性について明らかにすること。<br>対象：学生151名<br>方法：質問紙調査                               | 結果：実習前の事前学習の必要性に関する質問項目「日誌や指導計画などの記録に関する基本的な考え方と書く力」に対して、33.1%の学生が「今以上学ぶ必要性を強く感じる」または「今以上学ぶ必要性を感じる」を選択した。<br>考察：学生の筆記能力を伸ばす必要がある。全教員で協力し、実習担当者のみでない様々な視点からの指導の必要性を指摘した。 |

|           |                  |                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                       |
|-----------|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8<br>10)  | 竹下・<br>他<br>2014 | 目的：施設実習終了後の現場実習指導者の実習生に対する課題意識と実習生の課題意識を比較分析することにより、効果的な保育（施設）実習事後指導の在り方について提起すること。<br>対象：施設の実習指導者16名及び学生57名<br>方法：質問紙調査         | 結果：施設の実習指導者が実習生に不足していると感じる資質として、46.7%（15名中7名）が「実習日誌の書き方」を指摘した。実習生が自分に不足していると感じる資質に関して、「実習日誌の書き方」はデータ総数の22.2%を占めた。<br>考察：課題を実習事後指導において克服していくためには、教員側の一方通行による講義のみでは困難であり、実践体験型の教育方法導入の検討も必要である。         |
| 9<br>11)  | 藤重<br>2015       | 目的：事前指導における役割について調査・分析すること。また、藤重（2014）における学生の回答と施設実習指導者からの回答を比較し、今後の施設実習指導に役立てること。<br>対象：施設の実習指導者25名<br>方法：質問紙調査                 | 結果：「日誌や指導計画などの記録に関する基本的な考え方と書く力」に関して、25名中23名の指導者が「大学での学びが最も必要である」または「（現場と比較すると）大学での学びがより必要である」と回答した。<br>考察：現場での学びに関しては、理解や技術など基本的な能力を発展させた展開力や応用力が必要であり、施設実習前に最低限の知識理解と技術、書く力や考える力などをまずは向上させなければならない。 |
| 10<br>12) | 市東<br>2015       | 目的：実習指導における、体験的学びを記述するためのアプローチを考察し、プログラムを示すこと。<br>方法：著者による論考                                                                     | 結果：保育実習Ⅰ（施設）と保育実習Ⅲにおいて実習予定学生に課している「実習記録練習用シート」を示した。                                                                                                                                                   |
| 11<br>13) | 伊瀬<br>2015       | 目的：施設実習時の日誌の分析を行い、反省的思考を視点に実習の学びを明らかにすること。<br>対象：学生3名<br>方法：実習日誌の「一日の振り返り」における記述内容                                               | 結果・考察<br>実習日誌の記述から反省的思考の抽出、分類、保育行為の経過を分析した結果、実習生が反省的思考プロセスを持っている可能性が示唆された。                                                                                                                            |
| 12<br>14) | 藤重<br>2016       | 目的：施設実習に関する事前事後指導の実践報告と以前の研究で得られた結果の比較を行うこと。また、施設実習反省会で得られた実習生の施設における学びと課題を明らかにすること。<br>対象：学生145名、16施設18名の施設指導者<br>方法：質問紙調査、聞き取り | 結果：反省会で「日誌が日記になっている学生がいた」「感想の多い学生もいた」等の日誌の書き方に関する課題と、「誤字脱字」等の本人の不注意によるものや確認すれば修正が可能な課題が指摘された。<br>考察：前者には長期に渡る指導が必要であるが、後者には注意深く記述することや確認を怠らないことにより回避できる。                                              |
| 13<br>15) | 手塚<br>2016       | 目的：施設実習での学びを分析し、今後の課題を明らかにすること。<br>対象：学生76名<br>方法：質問紙調査                                                                          | 結果：実習日誌の書き方について、「よくわかった」が14.5%、「まあまあよくわかった」が38.2%、「普通」が38.1%、「あまりわからなかった」が9.2%であった。<br>考察：約5割の学生が記録の書き方について理解したといえる。                                                                                  |
| 14<br>16) | 村田<br>2016       | 目的：施設実習の意義・学習目標を明確にし、施設と養成校が抱える指導上の課題を把握すること。<br>対象：保育士養成校（19校）の施設実習指導担当者と実習受け入れ施設（58施設）の実習指導担当教員<br>方法：質問紙調査                    | 結果：施設側が抱える実習指導上の悩みとして得られたデータ165件中9件が学生の日誌記入に関するものであった。施設側が学生に事前に学習・準備しておいてほしいと考えていること186件中17件が「実習日誌の書き方」に関するものであった。<br>考察：なし                                                                          |
| 15<br>17) | 古野・<br>他<br>2016 | 目的：保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実習日誌の内容の比較により実習指導の効果を検討し、こどもの内面を捉えるための指導内容を明らかにすること。<br>対象：学生11名<br>方法：実習日誌の記述内容・インタビュー                             | 結果・考察<br>3名の学生の実習日誌記述内容の分析から、実習体験や観察をもとに考察をしていく力が着実に伸びてきていることが明らかになったが、実習指導の効果と因果関係は確認できなかった。                                                                                                         |

|           |                   |                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 16<br>18) | 佐藤<br>2017        | 目的：シラバスを通して保育実習（施設）指導の現状を把握し、今後のあり方について検討すること。<br>対象：都内の大学26校<br>方法：保育実習指導Ⅰ（施設）のシラバス内容の分析                               | 結果：23大学中19大学のシラバスに「実習における記録および評価」の項目があった。<br>考察：多くの養成校が「日誌の書き方」の授業を組み、実習指導で重点を置いて指導している。複数回「日誌の書き方」の授業を組んでいるところもあった。文章表現が得意でない学生がいることも影響していると考えられる。                                                                       |
| 17<br>19) | 古野・<br>他<br>2017  | 目的：保育実習Ⅰ・Ⅲの実習日誌の内容の比較により実習指導の効果を検討し、こどもの内面を捉えるための指導内容を明らかにすること。<br>対象：学生9名<br>方法：実習日誌の記述内容・アンケート（自由記述）                  | 結果・考察<br>学生ごとに記述内容を比較・検討した。日誌の記述の量は、必ずしも学生の成長を裏付けるように増加しているとは限らない。指導内容の工夫や、質的なアプローチから実習指導の効果を検証していくこと等が今後の課題である。                                                                                                          |
| 18<br>20) | 藤原・<br>他<br>2017  | 目的：施設の実習担当者にアンケート調査を実施し、学生の実習に対する意識や傾向を捉えるとともに、実践現場で求められる実習生の姿について明らかにし、実習指導のあり方について考察すること。<br>対象：実習先施設52か所<br>方法：質問紙調査 | 結果：学生の実習技術の「特によい点」として14.8%が「日誌」を選択した。「努力を必要とする点」として22.2%が「日誌」を選択した。自由記述では、事柄のみを書き学生の気付きや疑問点が書かれていない場合が多い、等の意見があった。<br>考察：学生には、記録は情報の共有として他者に読んでもらうものであること等を伝えているが、身につけていない。記録では、その内容も大切であるが、「丁寧に、きれいに」書くために普段からの努力も大切である。 |
| 19<br>21) | 手塚<br>2018        | 目的：児童養護施設へ実習に行った学生の学びの記述を分析すること。<br>対象：学生3名<br>方法：実習日誌の「一日の実習目標」「考察欄」の分析                                                | 結果・考察<br>子どもの気持ちを理解し考察する視点については、実習日誌に多くの記載が見られたが、施設の役割や他機関との連携のような全体的な項目についても、学生が理解を深めることができるよう、より深い事前指導が必要である。                                                                                                           |
| 20<br>22) | 手塚<br>2018        | 目的：施設実習での施設ごとの学びの特性や今後の課題を明らかにすること。<br>対象：学生66名<br>方法：質問紙調査                                                             | 結果：記録（実習日誌）の書き方について、「よくわかった」が34.8%、「まあまあわかった」が45.5%、「普通」が19.7%であった。<br>考察：約8割の学生が記録の書き方について理解したようであった。                                                                                                                    |
| 21<br>23) | 杉野<br>2018        | 目的：「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅲ」における実習内容や状況を調査し考察すること。<br>対象：学生69名<br>方法：調査票                                                           | 結果：「実習で特に困った点」で「実習日誌の書き方」を選択した学生は24.6%、「実習前に取り入れてほしい、もっと充実してほしい事前指導の内容」で「日誌や記録の書き方」を選択した学生は20.3%であった。<br>考察：考察なし                                                                                                          |
| 22<br>24) | 小佐々・<br>他<br>2018 | 目的：学生が施設実習に抱く不安要素を整理し、その解消時期を示すことにより、効果的な実習指導を行うための方策を示すこと。<br>対象：学生43名<br>方法：調査票                                       | 結果：自由記述結果を文節に分けコード付けした結果、54の文節のうち2つが、日誌に関する不安であった。<br>考察：考察なし                                                                                                                                                             |
| 23<br>25) | 石田・<br>他<br>2020  | 目的：事前学習において到達目標がどの程度達成されているか、それが施設実習の自己評価にどのように関係しているかを検討すること。<br>対象：学生90名<br>方法：アンケート調査                                | 結果：事前学習の自己評価に関して、「実習記録の書き方を理解すること」の平均値が2.94で調査した15項目中最も低かった。<br>考察：実習記録の書き方の指導が課題である。事前学習において実習記録の書き方の指導は授業1回のみである。実習記録の書き方の理解を深められるよう工夫が求められる。                                                                           |

|           |                  |                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 24<br>26) | 時本・<br>他<br>2019 | 目的：養成校における施設実習指導の実態を明らかにし、指導のあり方について考察すること。<br>対象：養成校41校<br>方法：アンケート調査                 | 結果：事前指導において「実習日誌・記録の書き方」を重要視していると回答したのは実習Ⅰでは12.2%、Ⅲでは10.0%であり、「実習日誌・記録の書き方」を課題にしていると回答したのは実習Ⅰでは11.4%、実習Ⅲでは11.8%であった。事後指導において「実習日誌の見直し」を重要視していると回答したのは実習Ⅰで0.8%であり、「記録の書き方」を課題としてしていると回答したのは実習Ⅰで10%であった。<br>考察：考察なし |
| 25<br>27) | 山田・<br>他<br>2020 | 目的：施設実習の実態や施設実習先からの施設実習に関する要望などを把握し、施設実習に関する現状と課題を明らかにすること。<br>対象：施設98か所<br>方法：アンケート調査 | 結果：「学生の実技・技能に関して、学生の改善が難しかった内容」について、「記録方法」は「改善できた」と「ほとんど改善した」を加えて40%以下であった。施設実習日誌に関する養成校への要望では、「日誌の記述内容の充実」が7名で最も多かった。<br>考察：「記録方法」は、利用者を観察する力とも密接に関連するが、大学生活での記録や文章作成上の基本的な技術の習得とも関連が深い。実習以外の授業と関連させて指導する必要がある。  |
| 26<br>28) | 小田桐<br>2020      | 目的：なぜ実習生は実習期間中に日誌を書かなければならないのか、ということについて、回答を試みること。<br>方法：著者の論考                         | 結果・考察<br>実習生が実習期間中に日誌を書くことの意義について試論を述べた。また、著者が実習指導において実践する「実習日誌トレーニング」を紹介した。                                                                                                                                      |

※番号欄の「番号）」は引用文献番号に対応する。

## 結果と考察

抽出した文献の概要は表1のとおりである。今回取り上げた26本の論文のうち、インタビューや自由記述、日誌の記述内容等の質的なデータのみを用い分析・考察しているものは8本（番号4、6、11、14～17、19）、尺度等を用いた選択式のアンケートによる量的なデータを用い分析・考察しているものは6本（3、7、9、13、20、23）、質的・量的データ両方を用いているものは9本（番号2、5、8、12、18、21、22、24、25）であった。また、データを収集するための調査を行わずに論考により書かれているものが3本（番号1、10、26）であった。

調査を行った23本の論文に関して、その調査対象（重複あり）は、学生を対象としたものが17本（番号2～8、11～13、15、17、19～23）であり、うち4本（番号11、15、17、19）は日誌の記載内容を分析するものであった。施設職員を対象としたものが7本（番号4、8、9、12、14、18、25）、保育士養成校の教員を対象としたものが2本（番号14、24）、シラバスを分析したものが1本（番号16）であった。

学生へのアンケートの内容及びその分析結果はさまざまであるが、日誌の書き方の理解や書く力、またそれらに関する自信を問うている論文が11本（番号2、3、5～8、13、20～23）あった。これら11本の全てにおいて、（自己評価ではあるが）日誌に関して自信がなかったり、より多く学ぶ必要があると感じている学生がおり、その割合は、最大で33.1%（番号7）であった。この結果に関し

て、今後の日誌に関する指導方法の改善について考察した論文は4本(番号3、7、8、23)であった。その内容は、実習日誌のサンプルを提示しながら考察の仕方を指導すること、実習担当者のみでなく全教員で協力し学生の筆記能力を伸ばすこと、講義のみではない実践体験型の教育方法を導入すること等であった。それらの方法自体は斬新なものではないが、日誌記入に関する課題をアンケートにより認識し、各指導現場の現状に合わせて課題を解決するための改善を図っているものであるといえる。一方、アンケートの結果は出ているものの日誌に焦点を当てた考察を行っていない論文も5本(番号2、5、6、21、22)あった。このことから、日誌の学習に関して、特に問題がないと感じている学生が多数派であるために、著者の問題意識として上がっていない、あるいは課題としての優先順位が低く、対策を検討するに至っていない場合があると推察される。

施設職員を対象とした調査を行なった論文の中で、学生の日誌を書く力の不足を指摘する結果となっているものは、5本(番号8、12、14、18、25)であった。そしてその考察においては、「丁寧に、きれいに」書く力や、文章作成技術といった、実習に限らない基礎的なスキルの向上の必要性が言及されており、長期的な視野に立った全学的な対応が必要であることが示唆されている。なお、番号18では、学生の実習技術の「特に良い点」としても14.8%が「日誌」を選択しており、日誌を書く力に関する学生間の差があることを反映していると考えられる。また、藤重(2015)(番号9)では、実習施設の実習指導者25名中23名が、「日誌や指導計画などの記録に関する基本的な考え方と書く力」に関して、現場よりも大学での学びが必要であると回答していることが明らかとなっている。

実習指導における、日誌の指導の実践を紹介している論文は3本(番号4、10、26)あった。村田ら(2013)(番号4)は、養成校と実習施設とが協働して日誌の指導を試みているほか、市東(2015)(番号10)は、日々の生活の中から1日分の出来事を記述する練習を通して保育者に必要な観察力(認識力)や言語力(理解力)を養う試みを報告している。また、この中では練習シートの添削を学生同士が行うことで、他者に自らの経験を伝える経験と他者の記述されたものから出来事を理解する経験を同時に成立させることを意図している。小田桐(2020)(番号26)は、DVD教材を鑑賞しながら事実と考察を区分して記入する「実習日誌トレーニング」を報告している。

### 総合考察および今後の課題

館山ら(2019)<sup>1)</sup>は、幼稚園実習及び保育所実習に関する論文においては、表題に「日誌」や「記述」といった日誌記入に関連する語が見られ、日誌の記述が困難で指導を要する可能性があることを指摘し、保育系学生の文章力の低下や自身で考える応用力の減少が背景にあると考察している。一方施設実習に関する論文においては、「スーパー」・「ビジョン」・「体制」、「取り組み」や、「心理」・「ストレス」・「要因」、「支援」・「プログラム」、「援助」・「技術」、「実態」等のクラスターが形成されており、より福祉的意味合いの強い結果となっていることを明らかにした。そして、「児童」、「養護」や「知的」、「障害」など学生がこれまでほとんど意識してこなかったであろう課題に直面するうえでの指導方法や、「スーパー」・「ビジョン」・「体制」といった施設内での実習生への指導方法

についても研究がなされており、施設実習においては確定的な指導法が存在していない可能性を示唆した。

レビューの結果から、一般的に保育者養成校において実習日誌・記録の書き方を重視し、課題として挙げていること、また学生の側も、書き方がわからない、自信がない等の問題を抱えていることが確認された。しかし、直接的に日誌に焦点を当てた論文は多くなく、日誌の中で学生の成長がどのように表れ、またどのように指導すればその成長が促進されるのか、またそもそも文章を書くことが苦手な学生に対して、どのように指導することが有効であるのかといったことに関する論文も多く蓄積されているとはいえないと考えられる。

その背景には、保育実習Ⅰ（施設）または保育実習Ⅲの振り返りや事前事後指導において、実習日誌の記述に関する不安や反省は、主要な問題ではないとの考えがあることも考えられる。確かに実習における日誌の記述は、「保育者として働いていくための専門性を、実習中の出来事を書くことによって学んでいくための」<sup>2)</sup> 手段である。また、苦手な学生にとっては、とすれば実習日誌をつけることをノルマとしてとらえ、空欄なく埋めることに注力してしまい、記録をつけることが目的になってしまいかねない。当然のことながら、実習の目的は実習簿を埋めることなく、日々の実践の中での学びを推進することであるはずである。そのため、日誌の記入という課題を、暗記による指導や、このように書けば良い、といった公式を教えるかのような指導は、望ましいものではないと考えられる。現場出身の実習指導担当者にとっては、そのような日誌記入のテクニックに走るのではなく、実習という現場体験を通してより重要なことを感じ、学んで欲しいという思いもあるのではないだろうか。しかし、実習前に学生が実習日誌の記載を不安に思っているとしたら、それらを解消し、実習に集中できるよう指導することが望ましいのではないだろうか。

日誌の指導は、学生の思考力や国語力に依存する部分もあり、実習担当者だけが指導を行っても直ちに明確な効果が現れるとは限らない。また、上述したように、各学校における従来の実習指導の内容でも、苦手意識を持たずに、また施設からも指摘を受けずに日誌を書き、実習を乗り越えていく学生が多数を占めている。日誌記入につまずく学生がいた際に、その学生も含めて理解できるようにより手厚い指導を行うのか、あるいは一般的な指導を行ってもなお日誌を十分に書けない場合は本人の努力不足として見過ごしてしまうのかは、各養成校ごとの指導事情による可能性もある。

幼稚園実習・保育所実習・施設実習それぞれにおける日誌の位置づけは同様ではなく、それぞれに合った日誌指導が行われることが望ましいが、施設実習に関しては実習先の施設の種類の多岐に渡り、「施設実習」と一括りにして日誌指導を行うことの難しさがあることも考えられる。しかし、その困難性を差し引いたとしても、体験したことを記録し、それを基に指導を受け、専門職業人としてのスキルを向上させるために日誌は必須のものであり、今後も日誌指導に関する様々な方法論や実践、またその効果の測定等、多くの知見が共有、蓄積されていくことが求められると考えられる。また、本研究では4本（番号11、15、17、19）にとどまったが、今後、日誌の記載内容を分析し、学生の理解度や学びの過程をより可視化する研究にも取り組みたい。その際には、幼稚園実習や保育所実習における指導方法や文献についても参照し、施設実習を相対化しながら従来の指導を

見直すことに資するものとしたいと考える。

## 引用文献

- 1) 館山壮一・千葉 正. (2019). 保育士を目指す学生が抱える課題と変化について－テキストマイニングによる研究の整理と展望－. *修紅短期大学紀要*, **39**, 35-49.
- 2) 山本美貴子・松山洋平 (編著). (2020). *保育所・施設・幼稚園実習ステップブック* (第2版): みらい.
- 3) 市東賢二. (2006). 実習における記録の意味(施設実習)－保育実習Ⅰ(施設)における記録と記述をめぐって－. *上田女子短期大学幼児教育学科保育者養成年報2006*, 19-27.
- 4) 石山貴章・安部 孝・田中 誠. (2010). 保育士養成機関における「施設実習」の現状と課題(2)－実習事後指導を通じた「自己評価」と「気づき」に関する分析から－. *九州ルーテル学院大学紀要*, **40**, 59-72.
- 5) 大野地平・寺田博行・海老江康二・宮本茂樹. (2012). 保育士養成課程カリキュラム改正後の施設実習についての学生意識に関する考察－児童養護施設で実習を行った学生へのアンケートを中心に－. *聖徳の教えをむ技法: (FD) 紀要*, **7**, 115-128.
- 6) 村田恵子・大谷文乃・澤津まり子. (2013). 実習施設と保育士養成校の協働による保育実習(施設)の試み－実習日誌の指導を中心として－. *就実教育実践研究*, **6**, 61-72.
- 7) 清水里美・吉島紀江・志澤康弘・藤本 史. (2013). 保育士養成課程における実習指導上の留意点: 施設実習の事前指導における教育内容の検討. *平安女学院大学研究紀要*, **13**, 19-28.
- 8) 池田幸代・田中 謙・前島 元. (2014). 保育者養成校の施設実習における学生の学びの内容の分析. *高等教育と学生支援: お茶の水女子大学教育機構紀要*, **4**, 54-61.
- 9) 藤重育子. (2014). 保育実習における学びと課題－施設実習後の学生の振り返りから－. *東邦学誌*, **43** (2), 161-170.
- 10) 竹下 徹・森田洋子・田島 望・牛島豊広. (2014). 保育士養成における保育(施設)実習事前事後指導の在り方について. *中九州短期大学論叢*, **36** (1), 15-25.
- 11) 藤重育子. (2015). 保育者養成校における今後の保育実習(施設)指導のあり方－実習生・施設実習指導者・実習科目担当者の差異に着目して－. *高田短期大学介護・福祉研究*, **1**, 32-41.
- 12) 市東賢二. (2015). 保育実習における体験的学びの記述としての実習記録への一考察－保育実習Ⅰ(施設)・保育実習Ⅲ事前指導への「実習記録練習ノート」の導入と運用について. *上田女子短期大学幼児教育学科保育者養成年報*, **9**, 8-15.
- 13) 伊瀬玲奈. (2015). 施設実習における学び－実習経過にみる反省的思考－. *和洋女子大学紀要*, **55**, 91-97.
- 14) 藤重育子. (2016). 保育者養成校における今後の保育実習(施設)指導のあり方(2)－2015年度の事前事後指導と施設実習反省会を終えて－. *高田短期大学介護・福祉研究*, **2**, 19-28.
- 15) 手塚崇子. (2016). 施設実習における学びの現状と課題－学生のアンケートを通して－. *川村学園女子大学研究紀要*, **27** (2), 39-49.
- 16) 村田恵子. (2016). 保育士養成課程における施設実習指導の現状と課題－施設および養成校実習指導担当者への調査から－. *就実教育実践研究*, **9**, 69-77.
- 17) 古野誠生・飯塚恭一郎. (2016). 保育実習Ⅲ(施設)実習指導の効果に関する一考察. *純真紀要*, **56**, 65-78.

- 18) 佐藤 恵. (2017). 保育実習指導(施設) シラバスにおける指導の現状と課題. 東京未来大学研究紀要, **11**, 105-111.
- 19) 古野 誠・飯塚恭一郎. (2017). 保育実習Ⅲ(施設) 実習指導の効果に関する一考察(2). 純真紀要, **57**, 63-76.
- 20) 藤原伸夫・山口香織. (2017). 保育実習指導のあり方を考えるⅡ－実習先(施設) のアンケート調査から見えてきたもの－. 神戸親和女子大学児童教育学研究, **36**, 191-199.
- 21) 手塚崇子. (2018). 施設実習の日誌分析における一考察－児童養護施設に着目した基盤的研究－. 川村学園女子大学子ども学研究年報, **3** (1), 103-111.
- 22) 手塚崇子. (2018). 施設実習における保育士の専門性についての研究－児童養護施設と知的障害者施設を中心に－. 川村学園女子大学研究紀要, **29** (2), 117-128.
- 23) 杉野寿子. (2018). 保育士養成課程における施設実習の課題－実習後調査からの考察－. 福岡県立大学人間社会学部紀要, **27** (1), 77-86.
- 24) 小佐々典靖・城戸裕子・鈴木靖之. (2018). 保育士養成校における施設実習に対する不安と変化. 浜松学院大学教職センター紀要, **7**, 39-52.
- 25) 石田慎二・西村真美. (2020). 保育士養成課程における施設実習の現状と課題(2). 帝塚山大学教育学部紀要, **1**, 1-8.
- 26) 時本英知・瀬尾知子・三浦主博・竹之下典祥・福田真一・細川 梢・日野さくら・石森真由子・大迫章史. (2019). 保育(施設) 実習の事前・事後指導の実際と課題－全国保育士養成協議会東北ブロック内における調査より－. 社会福祉科学研究, **8**, 69-82.
- 27) 山田修三・岡本晴美・加藤弘美・合原晶子・長友洋喜・中原大介・西川ひろ子. (2020). 広島県における施設実習に関する現状と課題. 児童教育研究, **29**, 49-53.
- 28) 小田桐 忍. (2020). 施設実習支援としての日誌指導を考える－なぜ実習生は日誌を書くのか－. 子ども保育学・教育学研究: 東京未来大学こども心理学部モチベーション行動科学部特別研究助成金研究成果報告書, **5**, 47-56.

